

平成19年4月号(電子化36号)

- NATIONAL DIET LIBRARY
- 発行／国立国会図書館総務部

- ISSN 1344-8412

[最新号の目次](#)

[バックナンバー](#)

[支部図書館に関する記事一覧](#)



はじめに

『びぶろす』は、昭和25年4月に創刊し、以後行政・司法各部門の支部図書館と専門図書館の連絡情報誌として今日に至っております。より広い範囲への提供を考え、平成10年8月号で冊子体を停止し、10月から国立国会図書館ホームページで公開しています。刊行形態は異なりましたが、今後も当館、支部図書館および専門図書館の折々の状況を掲載して行きます。

* 本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して掲載される場合は、[サイトポリシー](#)をご覧ください。事前にご連絡ください。

目次

1. 連携・協力への新たなる地平をめざして
2. [支部海上保安庁図書館を去るにあたって](#)
3. [法律図書館連絡会第49回総会の報告](#)
4. [アカデミーヒルズ六本木ライブラリーを見学して](#)
5. [平成19年度行政・司法各部門支部図書館職員に対する研修について](#)
6. [平成19年度専門図書館協議会総会・全国研究集会のお知らせ](#)
7. [日誌\(平成19年1月～平成19年3月\)](#)

[このページの先頭へ](#)

連携・協力への新たなる地平をめざして

吉永 元信

国立国会図書館は、納本制度等により収集した資料をもとに国会議員、行政・司法各部門そして広く国民に奉仕することを目的に設立されました。平成14年度に、東京本館、関西館、国際子ども図書館の三館体制での運営を開始して以来5年が経過しましたが、その間、平成16年10月には東京本館を新装開館し一連のサービス改革の総仕上げがおこなわれました。このなかで支部図書館へのサービスにつきましてもシステムを使用した本格的なサービスが実現し、資料貸出等の利便性が格段に向上したものと思っております。さらに昨年10月には東京本館において電子情報の提供サービスが拡充され、パッケージ系電子出



出版物、電子ジャーナルおよびインターネット情報等の電子情報の提供サービスを各専門室等で利用者に提供することとなりました(行政・司法各部門には、本格サービス開始に先駆けて昨年6月からサービスを開始しています)。また、実験事業として収集・提供してきたWARP(インターネット情報選択的蓄積事業)を本格事業化し、国内で発信されているインターネット情報を重点的に選定し、許諾の得られたものから収集・保存・提供を行っております。

このようなサービスの拡充は、国立国会図書館に課せられた使命と役割「国立国会図書館ビジョン2004」において示された四つの重点領域「立法補佐機能の強化」「デジタル・アーカイブの構築」「情報資源へのアクセスの向上」「協力事業の推進」を実現するために重点目標を策定して進めております。

さて、昭和23年に創設された国立国会図書館は来年度で60周年を迎えます。支部図書館制度は国立国会図書館法の掲げる日本の民主化への貢献の一翼を担うという設立理念実現への主要な柱の一つとして機能してまいりましたが、平成13年の省庁再編の中で各支部図書館も再編を余儀なくされ新しい体制で再出発いたしました。また昨年度から各支部図書館の国会図書館支部庁費予算の要求が統一要求方式から個別要求方式に変更されました。

このような変革期において支部図書館制度が基本的使命を果たし時代に即したよりよい図書館サービスを遂行するためには、今後とも中央館と各支部図書館が密接に連携・協力してゆくことが不可欠であると考えます。

中央館と支部図書館ではこの度「国立国会図書館中央館・支部図書館中期的運営の指針2007」を策定し、本年度からその取り組みを始めるところです。また、「国立国会図書館中央館・支部図書館電子化推進第三次基本計画(仮称)」の策定も現在進めております。今後とも支部図書館制度の運用が各支部図書館のご協力を得て発展の新たなる地平を切り開くべく関係各位の一層の叱咤、ご鞭撻をお願いする次第です。

(国立国会図書館総務部長)

[次の記事へ](#)

[目次へもどる](#)

[このページの先頭へ](#)

平成19年4月号(電子化36号)

- NATIONAL DIET LIBRARY
- 発行／国立国会図書館総務部

- ISSN 1344-8412

[最新号の目次](#)

[バックナンバー](#)

[支部図書館に関する記事一覧](#)



目次

1. [連携・協力への新たなる地平をめざして](#)
2. [支部海上保安庁図書館を去るにあたって](#)
3. [法律図書館連絡会第49回総会の報告](#)
4. [アカデミーヒルズ六本木ライブラリーを見学して](#)
5. [平成19年度行政・司法各部門支部図書館職員に対する研修について](#)
6. [平成19年度専門図書館協議会総会・全国研究集会のお知らせ](#)
7. [日誌\(平成19年1月～平成19年3月\)](#)

[このページの先頭へ](#)

支部海上保安庁図書館を去るにあたって

松澤 和弘

私は、これまで海上保安官として巡視船艇の海上勤務及び管理部門の陸上勤務に35年程携わってきました。ところが平成16年4月期の人事異動で海上保安庁図書館長の内命を受けまったく予想もしていない初めての業務ということで驚きました。4月着任後「海上保安庁図書館長」の他に国立国会図書館長から「国立国会図書館司書を兼ねて任命する」と言う辞令を頂き理解するまで暫く戸惑いました。

図書館業務にもようやく慣れてきたころには、国立国会図書館中央館が実施している司書業務研修にも参加する機会があり、図書館学、目録法、分類法、著作権制度及び資料保存で図書の管理、製本、補修の方法など基本的なことが修得できました。研修中には国立国会図書館中央館の地下書庫に保管の膨大な資料及び歴史と風格がある建物の隅々まで見学させて頂き感激しました。

研修のほか国立国会図書館中央館・支部図書館協議会、同幹事会及び兼任司書会議などの各会議に出席するため、庁舎から国立国会図書館まで国会議事堂の正門で警備に当たっている警備車両や警察官を横目で見ながら銀杏並木を何十回も往復しました。

時々開催していただいた懇親会にも欠かさず出席して、国立国会図書館中央館の皆さんの優しく親切な人柄に支えられ、業務以外にも親睦を図ることができ2年間楽しく過ごすことができました。

図書館業務についても非常によい経験ができ、この経験が残された人生の中で必ず役に立つものと感謝しております。

私が当図書館で携わった業務ですが、年度計画した図書、冊子、雑誌及びCD-ROMなどを購入するため図書案内の収集、見積書の徴収、出版社のホームページ等で調査し購入発議関係書類の作成。各課へ購入した図書の納本作業。図書館システムへ新着図書の登録及び遡及登録作業。この登録ではシステムが古く処理が遅いため苦労しました。表紙がぼろぼろの図書及び背表紙が壊れてばらばらの書誌の製本。レファレンス及び貸し出し等。さらに狭隘な図書館の書棚の配置換え及び資料等の廃棄処分など、結構な業務量でしたが古い資料の中にあるダニなどの虫に食われながらも作業を行い整理整頓ができました。

行政機関の電子化については、当図書館でも平成13年に図書館システムが導入され庁内LANにより図書検索が可能となっておりましたが、コンピュータシステムの進歩は急速で、このシステムでは国立国会図書館中央館が中心となって進めている「国立国会図書館中央館・支部図書館電子化推進基本計画」には機械的に対応できないことから、図書館システムの更新を要求してきましたが、予算的に認められないまま後任者に引き継いだことは非常に残念です。

幸いなことに国立国会図書館ではあらゆる図書及び資料を保存しているうえ、電子化が進みオンライン機能で資料の貸出しがスムーズにできることから、庁内の職員には国立国会図書館の活用を薦めてきました。

当図書館は合同庁舎三号館の11階で西側通路の北側奥に位置しており、会議室の隣になります。事務室24m²、書庫69m²、閲覧室4m²席数4席、書庫には約3万冊の図書及び資料等を保有し、特に海に関する資料として海上保安大学研究報告、海上防災調査研究報告及び海難防止調査研究報告など貴重なものもあります。利用者は当庁職員が業務に関する調査などのほかに、当庁OBの方々が熱心に投稿や講演される原稿の資料集めのため頻繁にこられました。当図書館には応接の場所がないので、閲覧席で接待することになりました。OBで元上司だった方は日ごろから研究熱心で新聞などに投稿しておりましたが、当図書館に資料がない場合は国立国会図書館まで何回も足を運び、私も同行して長い時間一緒になって検索や閲覧の手助けをいたしました。

このとき国立国会図書館支部図書館・協力課の職員とは日ごろから交流がありましたので、勝手なお願いにも親身になって対応していただき本当に助かりました。

当図書館からの景観はすばらしく、皇居では春には桜の花が咲き、初夏から夏には新緑から青葉の最盛期を迎え、秋には紅葉も楽しめます。また、黄金色に輝く銀杏並木とお堀に群れを成して泳いでいる鯉と水面で戯れる白鳥や水鳥を眺めながらの読書や資料閲覧は気分爽快です。ぜひ一度来館してみたいはいかがでしょうか。



最後になりますが、今後とも国立国会図書館中央館及び各支部図書館が益々活用されることと皆様方の活躍を期待しております。

(元海上保安庁図書館)



愛します！守ります！日本の海

[前の記事へ](#)

[次の記事へ](#)

[目次へもどる](#)

[このページの先頭へ](#)

平成19年4月号(電子化36号)

- NATIONAL DIET LIBRARY
- 発行／国立国会図書館総務部

- ISSN 1344-8412

[最新号の目次](#)

[バックナンバー](#)

[支部図書館に関する記事一覧](#)



目次

1. [連携・協力への新たなる地平をめざして](#)
2. [支部海上保安庁図書館を去るにあたって](#)
3. [法律図書館連絡会第49回総会の報告](#)
4. [アカデミーヒルズ六本木ライブラリーを見学して](#)
5. [平成19年度行政・司法各部門支部図書館職員に対する研修について](#)
6. [平成19年度専門図書館協議会総会・全国研究集会のお知らせ](#)
7. [日誌\(平成19年1月～平成19年3月\)](#)

[このページの先頭へ](#)

法律図書館連絡会第49回総会の報告

曾雌 裕一

第49回法律図書館連絡会総会は、平成18年10月27日(金)に東京大学山上会館大会議室を主会場として開催された。この総会への参加者数は、35機関から55名の会員のほか、賛助員4名を加えた計59名であった。また、書店、データベース関係業者8社の参加も得て、法律関係資料・データベース等の展示やデモンストレーションが行われた。なお、本総会においては、昨年の総会(創立50周年記念総会)で刊行企画書が提示された「法律図書館連絡会創立50周年記念誌」のうち、「記録誌」(約200ページ)が各加盟館・賛助員等に配布された(この内容については後述)。

当日は、開催館である東京大学法学部研究室図書室の笠原昌一郎氏の司会のもと、常任幹事館の中央大学図書館文系大学院図書室・藤勝周次氏、開催館・東京大学法学政治学研究科長・高橋宏志教授による開会挨拶に続いて、東京大学法学政治学研究科・大村敦志教授が記念講演「法科大学院時代の法学部図書館」を行った。

講演の趣旨としては、ご自身のフランス留学・滞在経験を踏まえた日仏の図書館比較を一つの基軸としながら、特に、日本における法科大学院の開設に伴う図書館の諸問題を論ずるものであった。中でも法科大学院の登場により一般大学の空洞化が起こることへの危機感を強調され、図書館の側からの情報発信の重要性が指摘された。その際、情報発信のイメージとしてフランスの書店を引用され、(1)フランスの書店は、地方でもかなりこだわりの選書を行っている、(2)店員の専門家意識が高い、(3)大きな書店では催し物が多く、単にゲストを呼ぶだけではなく、本格的な討論会などを行って書店の店員も積極的に関わっている、といった点を例として、図書館員一人一人の意識の向上を強調されたのが印象的であった。また、大学院で外国人が増加

していることに関して、日本の大学図書館においては外国法文献にもっと力を入れるべきであること、法科大学院関係では、法科大学院の教材開発が、近々学問的な研究の対象となるであろうことなど様々な問題が指摘された。

記念講演終了後、昼休み時間帯には、参加業者による展示会のほか、開催館による法学施設見学会が企画され、法学部図書室、ロースクール棟の見学が行われた。

午後の総会議事では、幹事会・各委員会（「法図連通信」等編集委員会、定例研究会運営委員会、ビデオ制作委員会、50年誌編集委員会）報告等に続き、新規加盟館（財団法人知的財産研究所図書館）・賛助員の入会、会計規則制定・規約改正、幹事館交代（西日本地区で、関西大学法学部資料室から近畿大学中央図書館への交代）、「法律資料の調べ方(DVD)」制作計画案（「法律文献-判例編」改定版をDVDで作成）、次回総会開催館（関東圏の私立大学を予定）等の協議が行われた。

続いて、午後の後半は、幹事会企画として「法図連の課題と求められる活動について」と題するパネルディスカッションが行われた。テーマとしては、当初「法情報リテラシー教育とサブジェクトライブラリアン養成体制の必要性について」「蔵書構成について」等の案も検討されたようだが、両テーマともサービス手段の部分的な課題に留まるため、今回は、より本質的な課題として、法律図書館の人の問題を取り上げることにしたとのことである。ディスカッションは、中綱栄美子氏（早稲田大学法学研究科）をコメンテーターとして、藤勝周次氏（中央大学文系大学院図書室）の司会により進められた。

中綱氏が事前に設定した課題は次のような諸点であった。

1. 問題状況の共有
2. “図書館的”なサービスは不要なのか
3. 現在の法情報サービスの意味合い
4. 図書館における“人”の重要性
5. サービス現場の個人をバックアップする必要性
6. 法図連組織の活動の再検討

特に、1においては「頻繁な人事異動による熟練司書・業務経験者の減少」「DB作成やシステム運用のための多大な時間の消費」「DB作成作業における主題分類概念の欠落→キーワード検索した結果に基づく資料提供を行うだけのサービスレベル」「図書・資料・DBの増加に比べてあまり増えない図書費」「以上のような状況に対して問題意識を持たない雰囲気 of 図書館職場の増加」といった問題点が、法務省・国会・裁判所各図書館を含む全ての図書館において共有しうる問題状況ではないかと指摘がなされた。もちろん、DBやWeb（インターネット）の普及が大いに有効であることを否定する趣旨ではないが、この使い方をユーザーに伝える人材の不足が問題であり、図書館員の存在意義が薄くなるとすれば、上記の問題状況は歯止めなく進行する危険があるので、一つの考え方として、サービス現場の個人をバックアップする組織の必要性を再検討すべきであるとの提起があった。

その後、この提起との関連で「法律図書館連絡会」が今後どうあるべきかが具体的に議論され、「法図連の行う事業の是非」「10数名規模での研究会の実施とその連絡体制の確立」「個人的な賛助会員の拡大とその前提としてのホームページ（広報）の充実」「財政基盤の確保→一つのアイデアとして、文科省科研費等の助成金の活用」など多くの論点についての意見交換が会場からの発言も含めて行われ、パネルディスカッションは終了した。

パネルディスカッション終了後「総合図書館見学会」が約1時間にわたって行われた後、総会は、参加者による交流会を経て閉会した。

なお、本総会においては、昨年総会において刊行が承認された「法律図書館連絡会50年史」のうち、第1分冊の「記録誌」が刊行・配布された。

本書は、A4版200ページからなるもので、

序章：

法律図書館連絡会50年の概観

第1章:

法律図書館連絡会創立50周年記念企画公演「法律図書館の課題—法律図書館に求められるもの—」(指宿信立命館大学大学院法務研究科教授)

第2章:

法律図書館連絡会に携わって(14記事)

第3章:

法律図書館連絡会50年の記録(「活動記録」「総会(内容・幹事・加盟機関・賛助員)」「法令資料通信」・「法図連通信」総目次)

あとがき

の構成からなっており、第2章の諸原稿は、法図連に関わってきた関係者のうち、「50年誌編集委員会」以前の「調査・刊行準備委員会」からの引継原稿が4編、新たな執筆依頼原稿が4編、すでに「びぶろす」や「法図連通信」に発表された原稿の再掲が6編という内容となっている。

ちなみに「法律図書館連絡会50年史」の第2分冊として、現在時点での日本の法律系図書館・室の現状を客観的に把握するための「ダイレクトリー」編を現在編纂中である。

最後に、法律図書館連絡会第49回総会と直接関係するわけではないが、法律図書館連絡会・定例研究会運営委員会の主催により、平成19年1月26日(金)に、最高裁判所図書館、及び、国立国会図書館(議会官庁資料室と所管書庫)の見学会が実施されたので、これを報告する。この見学会は20名のみの比較的小グループによるものであったが、見学時間が閲覧時間中ということもあるので、妥当な規模によるものであったと思われる。また、同連絡会の公式の企画による当館の見学会はこれが始めてであったが、通常、外部からの入庫が困難な地下書庫で当課(議会官庁資料課)所管の各種法律関係資料を閲覧できることには大いに意味があるので、同委員会に寄せられた感想も大変好評で、今後も適宜継続を検討してもらいたい企画との評価が高かったようである。

(国立国会図書館調査及び立法考査局)

[前の記事へ](#)

[次の記事へ](#)

[目次へもどる](#)

[このページの先頭へ](#)

平成19年4月号(電子化36号)

- NATIONAL DIET LIBRARY
- 発行／国立国会図書館総務部

- ISSN 1344-8412

[最新号の目次](#)

[バックナンバー](#)

[支部図書館に関する記事一覧](#)



目次

1. [連携・協力への新たなる地平をめざして](#)
2. [支部海上保安庁図書館を去るにあたって](#)
3. [法律図書館連絡会第49回総会の報告](#)
4. [アカデミーヒルズ六本木ライブラリーを見学して](#)
5. [平成19年度行政・司法各部門支部図書館職員に対する研修について](#)
6. [平成19年度専門図書館協議会総会・全国研究集会のお知らせ](#)
7. [日誌\(平成19年1月～平成19年3月\)](#)

[このページの先頭へ](#)

アカデミーヒルズ六本木ライブラリーを見学して

高松 美帆
三浦 良子

1. はじめに

「平成18年度行政・司法各部門支部図書館職員司書業務研修」の特別科目として行われた、「アカデミーヒルズ六本木ライブラリー」の見学会(2006年10月10日)に参加しましたので、見学の概要を報告します。

六本木ヒルズにそびえ立つ森タワーの52階には展望台がありますが、六本木ライブラリーは同じ最上部、49階のアカデミーヒルズ内にあります。ライブラリーへはアカデミーヒルズ専用のエレベーターで行きます。49階に到着すると、入口の照明はほの暗く、外の世界から別な空間へとさりげなく誘っています。帰りに気がついたのですが、このエレベーターは、下降するに従い内部が徐々に明るくなっていくようでした。

2. 設立の背景及び特色

受付の後、カンファレンスルームにおいて、このライブラリーの設立・運営に携わっているライブラリーディレクターの小林麻実氏から、設立の背景や特色、現在の運営状況などについて説明を受けました。

ライブラリー設立の背景には、都心での文化創造を目指すという六本木ヒルズの建設計画があり、49階において、不動産・ビジネススクールの開催が予定されていたそうです。教室は貸会議室としても利用することになっており、教室兼貸会議室を除いた残りのスペース(廊下部分を含む)に書棚を並べて図書館にしようと考えたことが設立のきっかけだったそうです。「図書館とは本だけでなく、情報リソースとしての人間も扱うべきである。本や情報との偶然の出遭いから新たな知を生み出すことを目的とする」という小林氏のコンセプトに

基づき、組織を離れて個人として学ぶ人達のためのライブラリーを創り、そこに集まって来た人達の求める図書を揃えていくという通常とは逆と思える発想で設立され、その結果として「世界中のどこにも類似することない、まったく新しいライブラリー」が出来上がったということです。

ライブラリーの主な特色は、(1)企業から援助を受ける企業の専門図書館ではなく、収益をもたらす独立事業として運営され、有料の会員制であること、(2)年中無休で長時間開館していること(コミュニティメンバーは、午前7時から午後12時まで。オフィスメンバーなら24時間利用可能)、(3)民間企業が営利目的で行う図書館であるため、著作権上の制約がかかる貸出・複写は行わず、図書の販売という形を採っていること、(4)無線LANを配備しパソコンの持込が可能であること、(5)アルコールを含む飲食が可能であること、(6)配架は十進分類法によらず、ジャンル別に分類し、様々なテーマ(出版社、作家の書棚、書評に掲載されたもの、本のサイズ等)を設けて本との出会いや発見ができるように工夫していることです。蔵書は約17,000冊で、新刊書店と同様に常時新しい本を揃えているとのことでした。

これらの特色は、会社員や学生が抱く「既存図書館への不満」、即ち、雰囲気暗くて新しい本がない、飲食ができない、パソコンやインターネットが使用できない、会社員や学生が自由な時間である土、日や夜に利用できない、子供がいて落ち着かないなどの不満を解消した結果生まれました。また、「会員から会費を徴収し、その範囲内でサービスを行うビジネスとして、顧客の望んでいるものを提供するの当然」との考えから、ライブラリーは顧客のニーズに合わせて変化し続けているそうです。当初は、このようなライブラリーに会員になる人がいるのか、事業として運営できるのか、という意見もあったそうですが、2003年4月の開館から3年が経過した現在、会員は2,500名を超え、20歳代から30歳代の会員が約7割を占めるそうで、見学時に見かけた会員も若い人が多く、土日は混んでいるとのことでした。

3. 各スペースについて

小林氏からライブラリーの概要を聞いた後、ライブラリー内を順次説明を受けながら見学しました。カフェは眺めの良いスペースに設けられ、このフロアを訪れた人達の共有スペースとして利用されています。ライブラリーブックストアは、回廊式となっています。ライブラリーオフィスは、会員が資料を読んだり、調べたりと個人の書斎感覚で利用できます。また、ミーティングルームでは自分のオフィスにいるかのように、会員以外の人との打合せを行うことも可能です。



窓の外には東京タワーやレインボーブリッジ、東京湾などの眺望が広がり、館内ではライブラリーの会員がパソコンに向かっていたり、カフェで談笑している姿が見られました。

「このライブラリーが図書館と呼べるかどうか議論のあるところ」との話でしたが、書棚に並ぶ書籍の一部はセレクトショップ的に表紙を見せるなどひと工夫されており、図書館という印象よりも、本のブティックというか、サロンを兼ねた書斎

のような印象を受けました。

興味深かったのが、立花隆氏などの「作家の書棚」を再現したコーナーで、作家の読書履歴(input)と作家の著書(output)を照らし合わせて見るようになっていました。数名の作家の書棚が再現されていましたが、作家の方は、書棚の公開を拒むケースが多いとのこと、協力してくれる作家を見つけるのに苦労しているそうです。



また、最近では、新たな人や情報が出会いきっかけをつくるべく、会員同士が1つのテーマをディスカッションするという、「ネットワーキング・パーティ」の開催や、会員が自分の好きな本、他人に読んでもらいたい本を持ち寄った「ブックナビ・クラブ」というコーナーも始まったそうです。

4. おわりに

このライブラリーを見学して優れていると思ったのは、一見不利な条件を独自のアイデアで克服していることでした。例えば、営利目的の図書館においては、複写は個別に著作権者の許諾を得なければなりませんが、複写や貸出を行わずに蔵書を販売することで著作権の問題をクリアしていることです。また、図書館のデジタル化により、「意外なものとの偶然の出会い」が欠けてくるという考えから、書棚に本が並んでいる環境を大事

にしていることです。

このような独特のライブラリーが成立し得た要因としては、蔵書を長期保存しないという点と有料の会員制という点が大きいと思います。「過去の情報や知識を保存しているだけのArchive」との小林氏の言葉を聞いて、自身の勤務する図書館について、「何のために保存しているのか？、その資料を保存する必要性はあるのか？、良い資料なのに埋もれさせているのでは？」と考えさせられました。どのような図書館にしたいのかという明確な理念を持ち、利用者のニーズを常に把握し取り入れていくという六本木ライブラリーの姿勢は、学ぶべき点が多々あると思いました。

参考文献:

小林麻実著, アカデミーヒルズ六本木ライブラリーのアイデンティティ, 情報の科学と技術 56巻2号 52-57 (2006)

アカデミーヒルズ六本木ライブラリーホームページ:<http://www.academyhills.com/library/>

(支部気象庁図書館)

[前の記事へ](#)

[次の記事へ](#)

[目次へもどる](#)

[このページの先頭へ](#)

平成19年4月号(電子化36号)

- NATIONAL DIET LIBRARY
- 発行／国立国会図書館総務部

- ISSN 1344-8412

[最新号の目次](#)

[バックナンバー](#)

[支部図書館に関する記事一覧](#)



目次

1. [連携・協力への新たなる地平をめざして](#)
2. [支部海上保安庁図書館を去るにあたって](#)
3. [法律図書館連絡会第49回総会の報告](#)
4. [アカデミーヒルズ六本木ライブラリーを見学して](#)
5. [平成19年度行政・司法各部門支部図書館職員に対する研修について](#)
6. [平成19年度専門図書館協議会総会・全国研究集会のお知らせ](#)
7. [日誌\(平成19年1月～平成19年3月\)](#)

[このページの先頭へ](#)

平成19年度行政・司法各部門支部図書館職員に対する研修について

行政・司法各部門支部図書館の職員が出席しやすいように、年度初めに研修予定をお知らせしています。また、参考としまして、平成19年度専門図書館協議会総会・全国研究集会と平成19年度全国図書館大会も御案内いたします。

平成19年度研修予定(平成19年4月～平成20年3月)

月	日	研修
4	上旬～	Learning on the KASUMIGASEKI WAN for the NDL Branch Libraries—国立国会図書館の各種サービスと申込方法—(霞が関WAN上)
5	11(金)	平成19年度行政・司法各部門支部図書館新規配属職員研修I 「支部図書館制度等に関する説明会及び国立国会図書館の見学」
	18(金)と25(金)	平成19年度行政・司法各部門支部図書館新規配属職員研修II 「NDL-OPACの検索と各種サービス」(2回実施予定)
6	8(金)	国立国会図書館DBの検索講習会 「国会会議録検索システム、帝国議会会議録検索システムの検索法」「レファレンスに役立つデータベースの利用法」
	13(金)	特別研修「見学会：支部最高裁判所図書館」

7	20(金)	特別研修「見学会:三菱重工業(株)技術企画部本社情報センター」
8		
9	7(金)	司書業務研修「オリエンテーション」「図書館学入門」
	18(火)	司書業務研修「分類法入門」
	19(水)	司書業務研修「レファレンス入門-人文分野」「レファレンス入門-経済社会分野」
	21(金)	司書業務研修「国会分館(議事堂内図書館)について」
	25(火)	司書業務研修「目録法入門」
	28(金)	司書業務研修「雑誌記事索引について」「交流会」
10	2(火)	特別研修「NDL-OPACの検索と各種サービス」
	5(金)	司書業務研修「著作権制度の概要について」「複写サービスと著作権」
	9(火)	司書業務研修「資料保存研修」(実習を含む)
	12(金)	司書業務研修 特別科目「見学会:ドイツ大使館」
	17(水)	司書業務研修「議会官庁資料室のレファレンスについて」
	23(火)	司書業務研修「新聞資料について」「電子資料室について」
	26(金)	司書業務研修「国会レファレンスについて」「研修に関する懇談会」「修了式」
11		
12	7(金)	特別研修「講演会:株式会社日立製作所日立研究所図書館からの報告」(仮題)

- 5/31(木)、6/1(金) 専門図書館協議会総会・全国研究集会(東京)
- 10/29(月)、30(火) 全国図書館大会第93回(東京)

[前の記事へ](#)

[次の記事へ](#)

[目次へもどる](#)

[このページの先頭へ](#)

平成19年4月号(電子化36号)

- NATIONAL DIET LIBRARY
- 発行／国立国会図書館総務部

- ISSN 1344-8412

[最新号の目次](#)

[バックナンバー](#)

[支部図書館に関する記事一覧](#)



目次

1. [連携・協力への新たなる地平をめざして](#)
2. [支部海上保安庁図書館を去るにあたって](#)
3. [法律図書館連絡会第49回総会の報告](#)
4. [アカデミーヒルズ六本木ライブラリーを見学して](#)
5. [平成19年度行政・司法各部門支部図書館職員に対する研修について](#)
6. [平成19年度専門図書館協議会総会・全国研究集会のお知らせ](#)
7. [日誌\(平成19年1月～平成19年3月\)](#)

[このページの先頭へ](#)

平成19年度専門図書館協議会総会・全国研究集会のお知らせ



- 平成19年度専門図書館協議会 総会・全国研究集会
- 総合テーマ:「立ち上がれ!ライブラリアン NEXTステージへ……」
- 開催期日:平成19年5月31日(木)、6月1日(金)
- 開催会場:日本科学未来館(東京)
- 後援:国立国会図書館、(社)日本図書館協会 他

問い合わせ先

専門図書館協議会 中央事務局

〒104-0033 東京都中央区新川 1-11-14 日本図書館協会会館6階

Tel

03(3537)8335

Fax

03(3537)8336

詳しくは

[前の記事へ](#)

[次の記事へ](#)

[目次へもどる](#)

[このページの先頭へ](#)

平成19年4月号(電子化36号)

- NATIONAL DIET LIBRARY
- 発行／国立国会図書館総務部

- ISSN 1344-8412

[最新号の目次](#)

[バックナンバー](#)

[支部図書館に関する記事一覧](#)



目次

1. [連携・協力への新たなる地平をめざして](#)
2. [支部海上保安庁図書館を去るにあたって](#)
3. [法律図書館連絡会第49回総会の報告](#)
4. [アカデミーヒルズ六本木ライブラリーを見学して](#)
5. [平成19年度行政・司法各部門支部図書館職員に対する研修について](#)
6. [平成19年度専門図書館協議会総会・全国研究集会のお知らせ](#)
7. 日誌(平成19年1月～平成19年3月)

[このページの先頭へ](#)

日誌(平成19年1月～平成19年3月)

平成19年

1月9日	支部防衛庁図書館が支部防衛省図書館に名称変更
1月15日	支部図書館長異動 最高裁判所図書館長 小川 正持(前 大谷 直人)
1月19日	支部図書館長異動 警察庁図書館長 小谷 渉(前 岩瀬 充明)
2月23日	平成18年度第2回兼任司書会議
3月15日	平成18年度第3回中央館・支部図書館協議会幹事会
3月16日	平成18年度第3回中央館・支部図書館協議会

[前の記事へ](#)

[目次へもどる](#)

[このページの先頭へ](#)